

システム基盤技術検討会への意見

平成28年3月23日
エネルギー戦略協議会事務局

基盤技術に対する考え方

＜エネルギー戦略協議会における検討状況と整理方針＞

- ✓ エネルギーシステムにおけるシステム間連携の要件は、“生産”、“流通”、“消費”に加えて昨年度から議論を進めている、“運用”の枠組である。
- ✓ “運用”の中にはエネルギーシステム特有の基盤技術である「エネルギープラットフォーム」、他のシステムも含めた「超スマート社会」に向けた基盤技術である「IoTサービスプラットフォーム」がある。
- ✓ 「超スマート社会」に向けた議論は、各戦協・WG等では各システム特有のプラットフォームについて、システム基盤技術検討会ではIoTサービスプラットフォームについて検討を進め、システム間連携の実現を目指すべき。

＜基盤技術に対する考え方と検討会への要望＞

- ✓ 現在、システム基盤技術検討会で深掘りしている5つのユースケースは、個々のシステム特有のプラットフォームであるため、システム横断的なIoTサービスプラットフォームの要件とりまとめに向けた議論についても進めて頂きたい。

検討会における各ユースケースに対する意見

ユースケース	バリュー	連携システム	エネルギーの視点による意見
1:ヒト・モノ位置情報基盤	利用者への安全安心サービス	おもてなし×高度道路交通	<ul style="list-style-type: none"> •空間の快適性を保つため、ヒトの位置情報（混雑状況）を利用した、空調等による温度、湿度制御が考えられる •BEMS等の省エネの観点からも、公共施設における位置情報はエネルギー分野への活用が可能な基盤となることを望む
2:地球環境情報	農業の付加価値生産性向上	スマート生産×スマートフードチェーン×地球環境情報	<ul style="list-style-type: none"> •地球環境情報の活用先は農業だけでなく、気候・天候情報の利用により太陽光等の再生可能エネルギーの発電量予測が可能 •農業への適用が主要目的であるとしても、エネルギーなど他分野への活用が可能な基盤となることを望む
3:データ流通基盤	ものづくり効率化	ものづくり×高度道路交通	
4:三次元地図基盤	新サービス創出 ※自動車活用	おもてなし×インフラ維持管理×高度道路交通	<ul style="list-style-type: none"> •高度道路交通にはエネルギー情報が必須で、自動走行や渋滞緩和サービスの中にはエネルギー充填計画も含まれる •エネルギー源としてのモビリティは災害時対応に活用 •個車情報の利用の取組例はエネルギー戦略協議会で検討
5:映像情報基盤	新サービス創出 ※カメラ情報活用	おもてなし×高度道路交通	